

社会科

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
問題解決に必要な情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取り、まとめる技能を身に付ける。	資料から必要な情報を読み取る力や社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を身に付ける。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通(駅や街道の名前)や近隣の市の名称、地図記号等に関する知識の定着には個人差がある。ア 資料の特徴を捉え、分かったことや考えたことを表現する力が十分に身に付いていない児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域探検などの体験的な学習を重視するとともに、必要に応じて地図記号に触れることで定着を図る。ア 各単元で、副読本などの資料を読み取り、考えたことをノートに記述したり、白地図に表したりする場面を意図的に設ける。イ 	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な手だてを実践した結果、適切な資料の読み取りができる児童が増えてきた。ア 体験的な活動を通して興味をもつ児童が増えた一方、資料から読み取ったことを考えたりノートに記述したりすることにはまだ課題が残る。イ
		<ul style="list-style-type: none"> 調べることを焦点化し、タブレット端末を活用して必要な情報と関連した事柄を集めるようにする。ア 資料から情報を読み取る時間を確保し、考えたことをペアやグループで説明し合い、よりよい考えに修正させる機会を増やす。イ 	<p>通年</p> <p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べることを焦点化したことで、タブレット端末を活用して調べたい情報を見付けたり、情報を選択できたりする児童が増えた。ア ペアやグループで話し合う機会を積極的に設けたことで、友達の考え方を知り、自分でも考えを表現できる児童が増えた。イ
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に必要な情報を集めたり、資料から必要な情報を見付けたりする力が身に付いていない児童がいる。ア 必要な資料から適切な情報を読み取り、自分の考えを表現することに課題がある児童がいる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表するときには、どの資料を根拠としているのかという点を重視して発表させる。ア 	<p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表する際に根拠を明確にさせることで、資料を活用しようとする意識が高まった。ア
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項と関連付けながら図や資料を読み取ったり、資料の取舍選択、必要な情報を集めたりすることに課題がある児童がいる。ア 			

